

## 『伊勢志摩など31地域を選定 観光地魅力創造事業—観光庁』

観光庁は「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」の対象として、岩手県のVISITTA KATA推進協議会、福島県の会津若松市国際観光推進協議会、三重県の「伊勢志摩キャンペーン」実行委員会、長崎県のアジア・国際観光推進に係る官民連携協議会など全国31地域を選定した。

観光による地域活性化、地方創生を図っていくためには、地域の観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げる魅力ある観光地域づくりが必要。それには点から線、線から面へとネットワーク化して内外から観光客を呼び込むことが重要。観光地魅力創造事業は、点の取り組みについて「見るもの」「食べ物」「買い物」等の観光資源を磨き上げるとともに、観光地域づくりの中心となる組織・機能（日本版DMO＝地域マネジメント組織＝）の確立を推進するのが目的。観光庁は選定された地域について今後、事業の計画策定・マーケティング、滞在コンテンツの充実、受け入れ環境の整備・ICT（情報通信技術）の活用、交通アクセスの円滑化等の取り組みに対して財政支援などを行っているとしている。選定地域の中には山形県の山形おきたま観光協議会、福井県のまちづくり小浜推進協議会、和歌山県のAL白浜“ここでしかできない旅”実行委員会なども含まれる。



## 『プロパー貸出重視の傾向強まる 信用保証調査—日本公庫』

日本政策金融公庫が金融機関を対象に実施した信用保証に関するアンケート調査結果で、**金融機関の間で信用保証付き貸出よりプロパー貸出（信用保証協会の保証等がなく、金融機関の全責任で実行する融資）を重視する傾向が強まっていることがわかった。金利競争激化等を反映したものだ。**

日本公庫が定例調査と同時に行った特別調査によると、「プロパー貸出を重視」が42.3%と「信用保証付貸出を重視」の9.4%を大幅に上回った。プロパー貸出を重視する理由は「金利競争の激化」が69.2%で最多。次いで「新規先（他機関の取引先）の開拓」、「保証料の割高感」の順。プロパー貸出を重視するようになった貸出先の特徴は、「定性情報（経営手腕、技術力、販売力および事業将来性等）を再評価した先」が最多。次いで「成長分野（環境・エネルギー、医療・介護等）に該当する先」。その一方、「担保余力が乏しい先」や「業歴が浅い先」は少数にとどまった。定例調査でも2015年度の信用保証付き貸出D,Iはマイナス7.8（見通し）と、11年度下期以降8期連続でマイナスとなり、貸出スタンスの変化がうかがえる。一方、15年度上期の中小企業向け貸出D,Iはプラス3.8（同）となり、13年度上期以降5期連続でプラスとなった。

出典元：日本中小企業経営支援専門家協会(JPBM) ※本記事・内容の無断転載を禁じます